

【事業所名】 養護老人ホーム大森老人ホーム

I 事業運営の基本方針

高齢者が地域で自立した生活を営めるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供し、「地域包括ケアシステム」の拠点としての役割を担い、地域に貢献する施設運営を目指す。

養護老人ホームは、地域のセーフティネットとしての役割が求められている。

地域福祉を担うネットワークの一員として関係機関と連携し、施設の役割・機能の維持向上を図り、地域に根ざした施設運営を遂行する。

II 中期的目標

項 目	内 容
1 ニーズの多様化と支援の質・専門性の向上	(1) 施設利用者への支援・援助者として倫理観と専門性を向上させる。 (2) 多様化する支援ニーズに対応するサービスの質と専門性の向上と職員のスキルアップを目指していく。
2 地域社会から信頼され貢献する施設として	(1) 地域住民が参加できる事業の展開。 (2) 地域共生社会に向け、地域の高齢者や子供との交流・支援する事業の情報発信に努め、信頼される拠点となる。
3 安定した経営基盤の確立	(1) 利用者確保と適切な予算執行・将来に向けた資金積立・積立金の計画的執行。 (2) 事業継続計画(BCP)の実効性を高めるため、随時、計画の見直しを行う。

Ⅲ 年間計画(進行管理表)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間計画	○利用者サービスへの取組（毎月：ヒヤリ事故報告検討会・懇談会・サービスマナー向上）（随時：支援計画書更新・ケース会議）											
	第三者委員会											
	○職員への取組（研修年間計画一覧表：人権研修・法人内研修・施設内研修・外部研修・救命救急講習等）（FM・NI コラボ見直し更新）（業務手順書見直し更新）											
	熱中症予防研修 食中毒予防研修 虐待の芽チェック ストレスチェック ガウンテクニック実習 嘔吐物処理実習 喉詰り対応実習											
	○地域社会への取組（毎月：ホームDEランチ、100 オバンザイ体操）（登校日：見守り隊）（小学生交流・高齢者体験）（高校生交流）											
	職場体験学習受入											
	○経営基盤強化への取組（毎月：運営会議、感染症対策委員会、給食委託定例会）											
	○持続可能な社会の実現に向けての取組（毎月：フレイル予防体操、チャレンジカード）											
	複合施設合同避難訓練											

IV 事業の計画

事業の概要	取り組む課題
1 利用者サービスへの取組	
(1) 人権尊重の徹底 法人理念に則り、利用者の自己決定と選択を尊重し、個人の尊厳を配慮した良質かつ安心・安全なサービス提供	① 人格を尊重した事業運営 ア.入所者の意思を尊重した支援計画の作成 イ.適切なアセスメントを行い入所者個々の状態の把握 ウ.支援計画に沿ったサービス内容の実践と評価
(2) 苦情解決・相談体制の整備 苦情や意見・相談は、適切に対応し、社会性や客観性に基づき公正、円満に解決を図る。	① 利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を推進するため、定期的な第三者委員の開催 ② 相手の心情を理解し、迅速に行動することにより、二次クレームに繋げないようにする。
(3) 事故防止対策 避けられない場合があることを前提としながらも、事故を起こさないための防止策の徹底	① リスクを特定し、可能性のあるリスクの排除 ② 防げる事故と防げない事故の分析 ③ ICT 導入による、転倒ならびに動態センサーの導入を検討する。
(4) サービスの質の確保 常にサービスの質の評価を行い良質なケアを実践する。	① 「法人理念」を具体的な行動に移せるよう、施設のサービス基本方針や行動指針を再検討する。 ② 第三者評価の継続受審し、サービスの向上に努める。

2 職員への取組	
(1) 人材の確保・育成・定着 人材育成計画を明確にし、定着率をあげていく。	① 自己申告書を活用した個別の目標設定と職員育成 ② 適正な人員配置を行い、よりよい労働環境の改善に努める。 ③ 新規採用職員に対するOJTの強化
(2) 人材の活用 人員を効果的に運用して、能率的に業務を達成する。	① 業務プロセスの見直しによる業務の効率化 ② 研修など能力開発による生産性向上への取組を多く取り入れる。 ③ 限られた業務時間を有効活用できるよう時間管理の徹底を図る。(効率よく成果を出す)
(3) 職場環境づくり 業務の生産性の向上を目指す。	① IT化等の設備投資による働きやすい環境づくりを推進する。 ② 労働環境(有期契約職員の労働条件)の見直しや人間関係の調整など、必要な見直しを図る。
3 地域社会への取組	
(1) 地域貢献 施設の社会化と地域の発展に寄与することを目的とする。また、養護老人ホームの存在、知名度をあげていく。	① 地域高齢者の食事サービス(ホームDEランチ)の拡大並びにフレイル事業、施設行事、クラブ活動への参加を積極的に呼びかける。 ② 近隣の小・中学生の登校見守りボランティアや公園の地域のクリーンアップ活動などを継続する。 ③ 子ども映画会の開催(年3回)、地域の各種教室などへの施設開放の実施 ④ 保育園や幼稚園、小中学校の職業体験や高等学校の授業の科目履修の受け入れの実施
(2) 災害対応 大規模災害への備え	① 複合施設全体の総合防災訓練に参加し、他組織との連携・協力を努める。
4 経営基盤強化への取組	
(1) 収入増への取組 安定的な運営を目指した取組(定員の充足を図り、安定した収入確保に努める。)	① 多様な支援を要する方も受け入れ、収入の確保に努める。 ② 実施機関との情報交換を密にし、要措置対象者の状況把握に努め入所につなげる。
(2) コスト削減への取組 確実にコストを下げる目標を明確にする。	① 収益を上げるために必要不可欠なコストと見直し可能なコストを見極め、業務改善や働きやすい環境づくりを具体的に進めていく。
(3) 施設設備等物的基盤整備 老朽化に伴い設備面の劣化が課題となっている。対策を計画的に取り組んでいくことが重要である。	① 開設から29年が経過し、大規模改修の時期が迫っていることから必要な改修事項の洗い出しを行う。 ② 東京都との協議や所要経費に充当する積立金の積立・取崩の計画を検討。
(4) 組織・システム 業務の効率化や一貫性を確保するために、業務プロセスや情報管理を標準化・自動化し、ツールや技術を導入する。	① 業務プロセスの標準化 : 定型作業や手順を明確化し、一貫性を保つ。 ② 情報管理の統一 : データを一元管理し、アクセスや共有をスムーズにする。(FMの利便性を追求) ③ 自動化 : 定型業務をAIによるシステムで自動化し、更なる時間とコストを削減。
(5) 災害・感染症対応 利用者・職員の安全確保と感染拡大の予防・防止を最優先としそれぞれの課題に取り組む。	① 毎月の感染症委員会(発生時は随時)で、入所者・職員の体調変化や地域の状況の確認、予防に努める。 ② 居室、食堂、浴室の共有スペースは、年間を通じて安全衛生・感染予防対策の徹底に努める。 ③ 感染症対策に必要な物品は、有事に備え常に必要量を検証し余裕を持って確保する。 ④ 事業継続計画は、それぞれ(震災・火災・水害)定期的な実施訓練を通じて実践力を高める。 ⑤ 非常食については、「備蓄計画」に基づき備蓄内容の見直しを随時図る。
(6) 情報セキュリティの強化 情報を正しく管理し、漏洩や紛失を起こさないようにする。	① アクセス権、各種パスワードの管理の徹底 ② マルウェアの感染や情報漏洩などのセキュリティ事故を未然に防ぐ職員教育の実践
5 持続可能な社会の実現に向けての取組	
(1) SDGsの取組 選ばれる施設としてそれぞれの課題に取り組み、職員には、SDGsを「自分のこと」として捉えさせる。	① 全ての人に健康と福祉を(目標3) 介護予防に力を入れ、リハビリ、認知症予防などを地域高齢者に提供する。 ② 働きがいも経済成長も(目標8) 豊かで安心して働ける職場環境の提供。 ③ つくる責任つかう責任(目標12) 廃棄物の発生防止、削減。(段ボール、おむつ、梱包資材、食品ロス)